

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	16H06299	研究期間	平成28(2016)年度 ～令和2(2020)年度
研究課題名	個別化医療の開発のための統計的方法論の構築とその実践に関する総合的研究	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	松井 茂之 (名古屋大学・医学系研究科・教授)

【令和元(2019)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、従来の平均値に基づく治療法に対し、患者個人の特性を考慮した治療法の開発とその実践評価を行うものである。研究全体を4つのフェーズに分割しそれぞれで研究目標を設定しているが、各フェーズを3つの研究者グループが方法論から実践までを分担して担当するという体制が効果的で、研究に着実な進捗が見られる。方法論の開発においては、その研究成果が有力な国際ジャーナルに掲載される一方、実践でも良好な研究結果が得られだしている。</p>	

【令和5(2023)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	本研究は、個別化医療の開発のための統計的方法論の構築と実践に関するもので、研究を4つのフェーズに分け、各フェーズを3つの研究グループが方法論から実践・検討を行うグループに分かれて取り組むという特殊性がある。方法論に関しては、有力な学術論文及び国際会議発表などで多くの成果を得ており、数々のツールの開発も行っている。また、事例研究では当初想定していた数を上回る結果が得られており、実践、特に疾患領域別の検討においても数多くの成果が得られている。